

令和元年9月27日

下野市議会議長 秋山 幸男 様

議会だより編集委員会  
委員長 中村 節子

## 議会だより編集委員会行政視察報告書

議会閉会中、当委員会の視察調査を実施しましたので、その結果について報告いたします。

### 記

#### 1. 視察期日及び視察地

令和元年 8月 1日 香川県高松市  
2日 徳島県鳴門市

#### 2. 参加者

委員長	中村 節子	副委員長	大島 昌弘
委員	坂村 哲也	委員	五戸 豊弘
委員	石川 信夫	委員	相澤 康男

#### 3. 視察事項

「議会広報・広聴について」（香川県高松市）

「議会広報について」（徳島県鳴門市）

#### 4. 視察内容

香川県高松市議会と徳島県鳴門市議会を訪問し、議会広報についての研修を実施した。

##### (1) 香川県高松市議会

高松市議会では、議会広報を「市議会レポート」として発行している。発行回数は年5回であり、定例会が4回、臨時会が1回となっている。定例会号はA4版8ページ、臨時会号は4ページと定めており、いずれもオールカラーである。

編集及び発行については、市議会広報紙編集委員会が担っている。委員は9名で、各会派から1名（計6名）と常任委員会から1名（計3名）が委員となっている。

特筆すべきは、議会広報紙発行までの速さである。議会が閉会して約半月後、議会の翌月15日に発行される。議会の様子や出来事をタイムリーに市民に伝えることに重点を置いており、編集作業の大半は事務局職員が担っている。

紙面については、文章が長くならないよう簡潔にまとめられ、市内在住のイラストレーターが描くイラストを効果的に活用している。そのほか、ユニバーサルデザインフォント、視覚障がいを持つ方にも見やすい配色とするなど、多様な読み手に配慮されている。紙面向上への取り組みとして、3年に1度、市の広報紙と併せて、市議会レポートの市民アンケートを実施している。

また、議会広報以外にもケーブルテレビによる議会の生中継と当日夜の再放送、インターネット中継、フェイスブックなど、複数の媒体を活用して議会の情報を市民に伝達している。なお、高松市でのケーブルテレビの加入率は32.6%とのことである。

##### (2) 徳島県鳴門市議会

議会広報の発行回数は年4回であり、A4版16ページ、表・裏表紙がカラー、中身は2色刷りで、本市の議会広報と形態は同じである。

編集及び発行については、議会広報委員会が担っている。委員は、各会派から1名（計6名）と各常任委員会から1名（計3名）の9名で構成されており、正副議長がオブザーバーとして委員会に出席する。

編集作業については、一般質問の原稿は質問した議員が作成し、それ以外の記事は事務局職員が作成している。記事は間隔よくすっきりと配置され、字数は抑え目だが、フォントが大きく、多くの市民に見やすく、読みやすい紙面である。市民の関心が高い議会の内容を中心に掲載することを念頭に、記事の作成・配置を行っているとのことであった。また、市民が議会を身近に感じられるよう、議会だよりを読んで感じたことや疑問点、意見などを「市民の広場」として募集している。

鳴門市では、高松市と同様、市の広報と議会だよりを併せたモニター制度を実施しており、より良い紙面づくりに活用している。

議会だよりの発行までには2カ月を要しているが、発行までの情報発信をケーブルテレビの議会広報番組で補っている。「ようこそ鳴門市議会へ！」と題し、1回30分の番組を15日間放送しており、番組作成・放送委託料は年間39万3,000円とのことである。なお、鳴門市のケーブルテレビ加入率は64%と高い状況であることから、議会広報番組は有効な情報伝達手段となっている。

## 5. まとめ

2つの市議会を視察して、今後本市議会においても研究・検討したいことを申し述べる。

### (1) 読みやすい議会だよりに向けた紙面の改善について

高松市議会では、ページ数が少ない中で簡潔にまとめられ、市内在住のイラストレーターのイラストを活用し、フルカラーで目を通しやすい紙面となっていた。また、ユニバーサルデザインを取り入れ、多様な読み手に配慮されたものであった。また、鳴門市議会では、市民の関心が高い議会の内容を中心に掲載することに徹底し、無理に記事を詰め込まず、すっきりしたレイアウトとして、その分文字を大きくしており、手に取って読みやすい紙面づくりを行っていた。

当委員会においても“市民に身近な議会だより”“手に取って読んでもらえる議会だより”を第一に考え、小学生に議会だよりの題字を書いていただくなどの取り組みを行っているが、さまざまな情報を伝えたいという観点から、情報を詰め込み、結果として文字数が多くなってしまいう傾向がある。

市民の皆様が親しまれ、読んでいただける議会だよりについて、改めて委員会内で検討し、より良い議会だより作りに繋げていきたい。

## (2) 議会だよりモニターの有効活用について

高松市・鳴門市両市において、長年にわたりモニター制度が実施されており、モニターから提出される意見を参考に、掲載内容や読みやすさなどの改善を継続的に行っていた。

下野市議会においても、本年8月から議会広報モニター制度の取り組みをスタートさせたところであり、両市のモニター制度を先進事例として、アンケート項目を工夫するなど、読み手側からの貴重な意見として、モニター制度を十分に活用していきたい。

## (3) 様々な情報発信媒体の模索について

高松市、鳴門市の両市において、ケーブルテレビを活用した議会情報の発信を行っている。議会の情報をタイムリーに市民へ届けるツールとして大変有効であり、ケーブルテレビの加入率が高いほど効果的な広報媒体となる。本市では、本年12月に、災害時の緊急放送等の防災機能を備えたコミュニティFM「FMゆうがお」が開局となることから、今後、ケーブルテレビと併せて、FM放送を活用した議会広報番組等について模索していく必要がある。